

第三部 学習モデル（指導計画案・学習指導案）集 算数科編

算数科の学習モデル

第2学年「ふえたり へったり」 「計算の じゅんじょ」・・・・・・・・・・	73
第4学年「はしたの大きさの表し方を考えよう」・・・	83
第5学年「ならした大きさ（平均）」・・・・・・・・・・	97

第2学年 算数科 単元の指導計画案

単元	◎ ふえたり へったり (3時間) 9月下旬		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・変量に着目した考え方をを用いて問題を解決したり、数量の関係を式に表したりしようとする態度を育てる。 ・加減の組み合わせられた3要素2段階順思考の問題を変量に着目して考えられるようにする。 ・変量に着目して数量の関係をとらえ、問題を解決できるようにする。 ・変量に着目した考え方で問題を解決する方法を理解できるようにする。 		
単元目標と生き方探究教育との関連	※ペア・グループ・クラスでの話し合い活動を通して、様々な考え方があることや友だちのがんばりに気付く。(人間関係形成・社会形成能力) ※課題を、生活体験に結び付けて考えたり、既習事項を活用しながら考えたりする。(課題対応能力) ※振り返り活動を通して、自己の成長をとらえるとともに、次時のめあてを立てる。(自己理解・自己管理能力)(キャリアプランニング能力)		
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・算数への関心・意欲・態度 ・数学的な考え方 ・数量や図形についての技能 ・数量や図形についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・変量に着目した問題の解決を通して、式の便利さに気づき、式を用いて数量の関係を表そうとしている。 ・加減の組み合わせられた3要素2段階順思考の問題を変量に着目して考えたり、数量の関係を表し方を考えたりしている。 ・問題の場面を順序よく絵図に表し、変量に着目して加減の演算を適切にとらえ、問題を解決することができる。 ・数についての豊かな感覚をもち、変量に着目した考え方で問題を解く方法を理解している。 	
時	学習活動 (●中心活動 ・活動内容)	*支援 ○留意点 算活 算数的活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物 →評価と関連している 生き方探究教育の力
1	<ul style="list-style-type: none"> ●加法の3要素2段階の問題を、いろいろに考えて解こうとする。 ・P101①の子どもがやってくる場面をイメージして、課題を把握する。 ・様々な考え方で解く。 <ul style="list-style-type: none"> ◆順にたす ◆まとめてたす ◆別々の式で ◆一つの式で ・どのように考えたのかを図と言葉を対応させながら説明する。 ・聞き手は、わかりやすい説明であったかどうかを、発表者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> *生活体験を聞き出すことで、問題を、生活と関連付けることができるようにする。 ○多様な考え方で解くことをうながすようにする。 算活数図ブロックの操作やテープ図を基に数量の関係を把握する活動 *ペアで考えを交流することで、自分の考えを振り返ったり、友だちの考えのよさに気付いたりすることができるようにする。 ○多様な考え方があることに気付かせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 関 グループ、クラスの話合いに進んで参加し、加法の3要素2段階の問題を解決しようとしている。(話し合い、ノートへの記述の様子) </div> →人間関係形成・社会形成能力、
2	<ul style="list-style-type: none"> ●加法の3要素2段階の問題を、変量に着目して考える。 ・P102①の駐車場に車が入ってくる場面をイメージして、課題を把握する。 ・入って来た車を先にまとめて考える。 ・考えをクラスで話し合う。 ・P102②の買った千代紙の数をまとめて考え、全体の千代紙の数を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> *児童の興味を喚起するような挿し絵を提示したり、動画を見せたりすることで、題意をイメージし把握することができるようにする。 *図を描いて考えることで、車の増加台数を先に求めてから、全体の台数を求める方法のよさに気付くことができるようにする。 ○把握しにくい児童には、数図ブロックを操作するよううながす。 算活増えた数をまとめて考える方法を、図や言葉と対応させながら説明する活動 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 考 図に表すことで、変量に着目して問題の解き方を考えている。(ノートへの記述) </div> →課題対応能力
3	<ul style="list-style-type: none"> ●加減の組み合わせられた3要素2段階の問題で、変量に着目した解き方のよさに気付く。 ・P103③のさるが遊んでいる場面をイメージして、課題を把握する。 ・さるは何匹増えたことになるかを考えてから解く。 ・まとめて考える方法のよさについてクラス、またはグループで話し合う。 ・P103④の色紙は何枚減ったのかを先に考え、残りの色紙の枚数を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> *生活体験を聞き出すことで、問題を生活と関連付けることができるようにする。 *さるが増えたのか減ったのかを図に表すことで、さるの増加数を把握できるようにする。 *数の増減が把握しにくい児童には数図ブロックを操作するよううながすことで、理解を図ることができるようにする。 算活増減した数をまとめて考える方法を、図や言葉と対応させながら説明する活動 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 技 既習事項を活用し、変量に着目して問題を解くことができる。(ノートへの記述) </div> →課題対応能力 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 知 話し合い活動を通して、変量に着目して問題を解く方法を理解している。(発言、ノートへの記述) </div> →人間関係形成・社会形成能力

本時の目標

○グループ、クラスの話合いに進んで参加し、加法の3要素2段階の問題を解決しようとする。<関心・意欲・態度>

→人間関係・社会形成能力

○生活場面を想起し、加法の3要素2段階の問題の解決の仕方を考えることができるようにする。<数学的な考え方>→課題対応能力

本時の展開

学習目標	「いろいろなほうほうで考えよう。」		
学習展開	学習活動 指導者の発言	*支援 ○留意点 相相談活動 算活算数的活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを知る。 自分のめあてを書く。 めあてを発表する。 <p>みんなが遊んでいるときのことをイメージしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を知る。 <p>子どもが10人でドッチボールをしていました。そこへ、2人やってきました。また、6人やってきました。こどもは何人になりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活体験を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 *生活体験を聞き出すことで、問題を、生活と関連付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※問題に関連した図や写真 ※数図ブロック <p>④グループ、クラスの話合いに進んで参加し、加法の3要素2段階の問題を解決しようとしている。(話合い、ノートへの記述の様子)</p>
課題解決 (個別・ペア)	<ul style="list-style-type: none"> 一つだけの考え方ではなくて、二つの考え方で解くことができたなら素晴らしいですね。 ◆順にたす方法で解く。 ◆まとめたたす方法で解く。 <p>わかりやすく考えを説明できるように工夫しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆テープ図を使う。 ◆数図ブロックを使う。 ◆絵を描く。 <ul style="list-style-type: none"> ペアの人に、自分の考えを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考え方で解くことをうながすようにする。 <p>算活数図ブロックの操作やテープ図を基に数量の関係を把握する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> *ペアで考えを交流することで、自分の考えを振り返ったり、友だちの考えのよさに気付いたりすることができるようにする。 	<p>【人間関係形成・社会形成能力】 クラスやペアで話合い、生活体験や考え方を交流している。</p> <p>⑤生活場面を想起し、加法の3要素2段階の問題の解決の仕方を考えている。(発言、ノートへの記述)</p>
課題解決 (クラス)	<p>自分の考えを、わかりやすく説明しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表する。 <p>今の説明はわかりやすかったですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き手は、わかりやすい説明であったかどうかを、発表者に伝える。 <p>いろいろな考え方があって、おもしろいですね。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な考え方や見方ができることのよさを知る。 <p>どの考え方がわかりやすいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組みやすい方法はどれなのか、判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発表に出てきた式や図を板書する。 ○多様な考え方があることの面白さを伝える。 ○自分が取り組みやすい方法を選択させて、次の課題に向かうようにする。 	<p>【課題対応能力】 生活体験と学習とのつながりに気付いている。</p>
振り返り	<p>自分がやりやすい方法で、次の問題を解いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適応題に取り組む。 <p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を活用するように伝える。 ○適応題ができたかどうかチェックする。 ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 <p>相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時にがんばりたいことを考えたりする。</p>	

本時の目標

○**図**に表すことで、変量に着目して問題の解き方を考えることができるようにする。<数学的な考え方>→課題対応能力

本時の展開

学習目標	「まとめて 考えよう。」		
学習展開	学習活動 指導者の発言	*支援 ○留意点 相 相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを知る。 自分のめあてを書く。 めあてを発表する。 <p>自動車を停める駐車をイメージしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を知る。 <p>ちゅう車場に車が17台とまっていた。そこへ4台はいつてきました。また6台はいつてきました。車はいま何台ありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の課題を想起する。 テープ図やブロック図や車のイメージ図を活用して問題を解くことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> *児童の興味を喚起するような挿し絵を提示したり、動画を見せたりすることで、題意をイメージし把握することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※提示用のテープ図やブロック図 ※題意をイメージしやすくするための写真や具体物 <p>考図に表すことで、変量に着目して問題の解き方を考えている。(ノートへの記述)</p>
課題解決 (個別)	<p>増えた数をまとめて考える方法で解きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆まとめてたす方法で解く。 <p>わかりやすく考えを説明できるように工夫しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆テープ図を使う。 ◆数図ブロックやブロック図を使う。 ◆車のイメージ図を描く。 ・ペアの人に、自分の考えを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> *図を描いて考えることで、車の増加台数を先に求めてから、全体の台数を求める方法のよさに気付くことができるようにする。 ○把握しにくい児童には、数図ブロックを操作するようにながす。 算活増えた数をまとめて考える方法を、図や言葉と対応させながら説明する活動 <ul style="list-style-type: none"> *ペアで考えを交流することで、自分の考えを振り返ったり、友だちの考えのよさに気付いたりすることができるようにする。 	<p>【課題対応能力】 考え方をわかりやすい図で表している。</p>
課題解決 (クラス・個別)	<p>自分の考えを、わかりやすく説明しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表する。 <p>次の問題を解いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②千代紙の問題に取り組む。 ・車の問題と同じく、「まとめてたす」方法で考える。 <p>まとめてたした方が、計算が楽になるね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふえた数をまとめると、10になることから、まとめてたした方が、計算処理がしやすいことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の発表に出てきた式や図を板書する。 <ul style="list-style-type: none"> *図を描いて考えることで、千代紙の増加台数を先に求めてから、全体の台数を求める方法のよさに気付くことができるようにする。 *計算のしやすさに着目させることで、後から来た車をたした方が、計算処理がしやすいことに気付くことができるようにする。 ○まとめてたす方法で、適応題に向かうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※提示用のテープ図やブロック図 ※題意をイメージしやすくするための写真や具体物
振り返り	<p>まとめてたす方法で、次の問題を解きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適応題を解く。 <p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○適応題ができたかどうかチェックする。 ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時にがんばりたいことを考えたりする。 	

本時の目標

○既習事項を活用し、変量に着目して問題を解くことができるようにする。<技能>→課題対応能力

○話し合い活動を通して、変量に着目して問題を解く方法を理解することができるようにする。<知識・理解>→人間関係形成・社会形成能力

本時の展開

学習目標	「ふえたりへったりする問題をとこう。」		
学習展開	学習活動 指導者の発言	*支援 ○留意点 相 相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	・本時のめあてを知る。 ・自分のめあてを書く。 ・めあてを発表する。 動物園のさる山を見たことはありますか。 ・課題を知る。 さる山にさるが12ひきいました。そこへ6ひきやってきました。そのあと4ひき帰りました。さるは何ひきになりましたか。 ・前時では、後から増えた車の台数をまとめてたした方が、計算がやさしくなったことを想起する。 ・テープ図やブロック図を活用したことを想起する。	相 指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 *生活体験を聞き出すことで、問題を生活と関連付けることができるようにする。	※題意をわかりやすく示す絵や写真(動画)
課題解決(個別・ペア)	最後には増えましたか?減りましたか? ・増えた数が多いことに気付く。 ・最終的にふえた数をたす方法で解くことを知る。 わかりやすく考えを説明できるように工夫しましょう。 ◆テープ図を使う。 ◆数図ブロックやブロック図を使う。 ◆さるのイメージ図を描く。 ・ペアの人に、自分の考えを説明する。	*さるの増減を図に表すことで、さるの増加数を把握できるようにする。 *数の増減が把握しにくい児童には数図ブロックを操作するようにながすことで、理解を図るようにする。 算活 増減した数をまとめて考える方法を、図や言葉に対応させながら説明する活動 *ペアで考えを交流することで、自分の考えを振り返ったり、友だちの考えのよさに気付いたりすることができるようにする。	※提示用のテープ図やブロック図 既 既習事項を活用し、変量に着目して問題を解くことができる。(ノートへの記述)
課題解決(クラス)	自分の考えを、わかりやすく説明しましょう。 ・自分の考えを発表する。 今の説明はわかりやすかったですか。 ・聞き手は、わかりやすい説明であったかどうかを、発表者に伝える。 同じ方法で色紙の問題を解いてみましょう。 ・④色紙の問題に取り組む。 ・考え方を発表する。 先に、増えた数を計算すると、どのようないいところがありますか。 ・さるの増減を先に計算すると、2匹だけ増えていることから、その方が、計算処理がしやすいことに気付く。	○児童の発表に出てきた式や図を板書する。 ○増減をまとめて計算して、今の色紙の枚数を求めるようにする。 *計算のしやすさに着目させることで、さるの増減を先に計算した方が、計算処理がしやすいことに気付くことができるようにする。 ○増減を先に計算する方法で、次の課題に向かうようにする。	【課題対応能力】 増減を先に計算する方法と、前時の内容とのつながりに気付いている。 知 話し合い活動を通して、変量に着目して問題を解く方法を理解している。(発言、ノートへの記述)
振り返り	増えたのか減ったのかを先に計算して、次の問題を解きましょう。 ・適応題を解く。 何かが増えたり減ったりするようなことって、生活の中で、体験したことはありますか。 ◆エレベーター ◆お年玉 ◆遊ぶときの人数 今日の学習を振り返りましょう。 ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと	○適応題ができたかどうかチェックする。 ○増減を先に計算する方法がわかりづらい児童には、順にたしたり引いたりする方法で解決をうながす。 *学習内容と生活をつなげる意識をもつことで、学習している意義を理解することができるようにする。 ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相 友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時にがんばりたいことを考えたりする。	【人間関係形成・社会形成能力】 クラスやペアでの話し合い活動を通して、図で表すことによさや、友だちのがんばりなどに気付いている。

学習の目標 「いろいろなほうほうで考えよう。」

◎ ふえたり へったり
 ㊦ 「せいかつとむすびつけて考えよう」

子どもが 10人 ドッチボールをしていました。そこへ 2人やってきました。また6人やってきました。こどもは何人になりましたか。

図をかくて考えよう。
 順にたして考えたときの図

$10+2=12$
 $12+6=18$
 答え 18人

つぎのことをふりかえろう

- ①こまったこと
できなかったこと
- ②できたこと
うれしかったこと
- ③友だちのよかったところ
- ④つぎ、がんばりたいこと

こんなこと、あるかな？
 どうやって計算したらいいかな？

はじめ 10人 ← ?

まとめて計算したときの図

何人ふえたのかな
 $2+6=8$ 8人ふえた
 $10+8=18$ 答え 18人

いろいろなとき方があっても、答えは同じ

じゆんに たす ほうほう
 まとめて たす ほうほう
 どちらもできるようになろう

学習の目標 「まとめて 考えよう。」

◎ ふえたり へったり
 ㊦ 「まとめて 考えよう」

ちゅう車場に車が 17台とまっています。そこへ4台はいつてきました。また6台はいつてきました。車はいま何台ありますか。

何台ふえたのか、まとめて考えてみよう

はじめ 17台 ← 児童が考えた図

何台 ふえたのかな
 $4+6=10$ $17+10$ は=27
 答え 27台

② みさきさんは ちよ紙 24まいもっていました。きのう 5まい 買いました。今日 5まい 買いました。いま ちよ紙は何まいありますか。

はじめ ?まい ← 児童が考えた図

何まい ふえたのかな
 $5+5=10$ $24+10$ は=34
 答え 34まい

つぎのことをふりかえろう

- ①こまったこと
できなかったこと
- ②できたこと
うれしかったこと
- ③友だちのよかったところ
- ④つぎ、がんばりたいこと

先にふえた数をもとめた方が、計算がしやすい → まちがいが少ない

学習の目標 「ふえたり へったりする もんだいをとこう。」

◎ ふえたり へったり
 ㊦ 「ふえたり へったりする 問題をとこう」

さる山にさるが 12ひきいました。そこへ6ひきやってきました。そのあと4ひき帰りました。さるは何ひきになりましたか。

はじめ 12ひき ← 児童が考えた図

さいごには、何ひきふえたのかな。
 $6-4=2$ 2ひきふえたから
 $12+2=14$ 答え 14ひき

色紙を 50まいもっていました。15まいつかいましたが、あとでお姉さんから7まいもらいました。色紙は いま 何まいありますか。

はじめ 50まい ← 児童が考えた図

さいごには、何まいへったのかな。
 $15-7=8$ 8まいへったから
 $50-8=42$ 答え 42まい

じゆんに計算すると・・・
 $12+6-4=14$ 答え 14ひき

まとめて計算した方が、計算がしやすい → まちがいが少ない

つぎのことをふりかえろう

- ①こまったこと
できなかったこと
- ②できたこと
うれしかったこと
- ③友だちのよかったところ
- ④つぎ、がんばりたいこと

第2学年 算数科 単元の指導計画案

単元	8 計算のじゅんじょ		(4時間) 9月下旬
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・()を含む式を正しく計算したり, $>$, $<$, $=$を使って式に表したりすることができるようにする。 ・加法の結合法則, 及び()や$>$, $<$, $=$の意味と使い方を理解できるようにする。 		
単元目標と生き方探究教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> ※相手意識をもって問題集作りに取り組んだり, ペアやグループの中で考えを出し合うことで, 訂正したり考えを変えたりする。(人間関係形成・社会形成能力) ※学習内容や自分の理解に合わせた問題を作成する。(自己理解・自己管理能力) ※課題を, 生活体験に結び付けて考えたり, 既習事項を活用しながら考えたりする。(課題対応能力) ※振り返り活動を通して, 自己の成長をとらえるとともに, 次時のめあてを立てる。(キャリアプランニング能力) 		
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての技能 ・数量や図形についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の順序を考えて()を含む式を正しく計算したり, $>$, $<$, $=$を使って数量の大小関係を式に表したりすることができる。 ・加法の結合法則, 及び()や$>$, $<$, $=$の意味と使い方を理解している。 	
時	学習活動 (●中心活動 ・活動内容)	*支援 ○留意点 算活 算数的活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物 →評価と関連している 生き方探究教育の力
1・2	<ul style="list-style-type: none"> ●()の意味を知り, ()を用いた式の計算をする。 ・P104のあひるが池に来る場面をイメージして, 課題を把握する。 ・「じゅんに」と「まとめて」の二つの考え方を式に表す。 ・「じゅんに」と「まとめて」の考え方の式の共通点と相違点をペアで話し合う。 ・クラスで考えを交流する。 ・「じゅんに」と「まとめて」の2通りの考え方を, それぞれ一つの式に表すようにする。 ・()を用いる場合を知る。 ・じゅんにたしても, まとめて対しても, 答えは同じであることを知る。 ・P105②③で()を用いた式の計算をしたり, 数量の関係を2通りの式に表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> *児童の興味を喚起するような挿し絵を提示したり, プレゼンテーションソフトの動画を見せたりすることで, 題意を把握することができるようにする。 ○ペアで自分の考えを伝え合うようにする。 *ペアで考えを交流することで, 自分の考えを振り返ったり, 友だちの考えのよさに気付いたりすることができるようにする。 ○絵図と式とが一致するように, 絵図を使って式の説明をさせる。 算活絵図を使って加法の結合法則を表す式の意味を説明する活動 ○一つの式に表すときには, まとめてたす部分を()でくくることを知らせる。 ○()の中の計算は, 先にすることを確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 技数量の関係を簡潔に表し, ()を用いた式の計算ができる。(ノートへの記述) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 知()の意味と加法に関する結合法則を理解している。(発表, ノートへの記述) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 技既習事項を活用して, 数量の関係を簡潔に表し, ()を用いた式の計算ができる。(ノートへの記述) </div> <p>→課題対応能力</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ●()を使った式を立てるような問題作りをする。 ・「みんなが解きたくなるような問題集をつくろう」という課題を知る。 ・問題を作るときに注意点を考える。 ・つくった問題を, 友だちと解き合うことで, 問題文の校正を行う。 ・絵やヒントを問題文に加え, 解く意欲が湧くように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> *「問題集作り」という目的を設定することで, 児童の作成意欲を高めることができるようにする。 ○内容が, 既習事項から逸脱しないようにする。 ○集まったワークシートを印刷し, 問題集を完成させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 関問題を解く人のことを考えたり, グループで問題を解き合ったりすることを通して, 問題集作りに進んで取り組んでいる。(問題文, 問題を作成している様子) </div> <p>→人間関係形成・社会形成能力</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ●$>$, $<$, $=$の意味と使い方を知り, 記号を用いて数量関係を式に表す。 ・P106①の文房具屋で買い物をする場面をイメージして, 課題を把握する。 ・150円で消しゴムと鉛筆が買えるか買えないかを考える。 ・自分の考えをペアで話し合う。 ・買える場合と買えない場合の, 数と式の大小関係を明らかにする。 ・$>$, $<$, $=$の意味と使い方を知る。 ・$>$, $<$, $=$を使って式に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> *児童の興味を喚起するような挿し絵を提示したり, 具体物を準備したり, 劇をしたりすることで, 活動をイメージし, することを把握することができるようにする。 ○代金を式に表して求めればよいことを確かめる。 算活等号・不等号を用いて大小関係を式に表す活動 ○既習の$>$, $<$を想起させる。 ○どのような場合に$>$, $<$, $=$を使うかを知らせる。 	<p>※お買い物遊びのための具 体物</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 知買い物遊びをペアで取り組み, $>$, $<$, $=$の意味と使い方を理解している。(発表, ノートへの記述) </div> <p>→人間関係形成・社会形成能力</p>

本時の目標

○数量の関係を簡潔に表し、() を用いた式の計算ができるようにする。<技能>

○() の意味と加法に関する結合法則を理解することができるようにする。<知識・理解>

○既習事項を活用して、数量の関係を簡潔に表し、() を用いた式の計算をすることができるようにする。<技能> →課題対応能力

本時の展開

学習目標	「() をつかって まとめて計算しよう。」		
学習展開	学習活動 指導者の発言	*支援 ○留意点 相相談活動 算活算数的活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを知る。 今日はまとめて計算する方法を勉強します。 自分のめあてを書く。 めあてを発表する。 課題を知る。 <p>池にあひるが17わいました。そこへ6わはいつてきました。また4わはいつてきました。あひるは何わになりましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※挿絵 ※プレゼンテーションソフトのスライド
(個別・ペア) 課題解決	<ul style="list-style-type: none"> 二つの方法で考えてみましょう。 絵図を使って、あひるの増加を表す。 「じゅんに」と「まとめて」の二つの考え方を式に表す。 式を説明しながら、わかりやすく発表するために、ノートを工夫する。 ペアで自分の式を説明し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> *児童の興味を喚起するような挿し絵を提示したり、プレゼンテーションソフトのスライドを見せたりすることで、題意を把握することができるようにする。 	
課題解決 (クラス・ペア)	<ul style="list-style-type: none"> 考えを発表する。 「じゅんに」と「まとめて」の考え方の式の共通点と相違点をペアで話し合う。 共通点と相違点を発表する。 「まとめて」の考え方の式を() を使って二つの式を一つの式にまとめてみましょう。 「じゅんに」「まとめて」の2通りの考え方を、それぞれ一つの式に表す方法を考える。 () を用いる場合を知る。 一つの式を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵図と式とが一致するように、絵図を使って式の説明をさせる。 算活絵図を使って加法の結合法則を表す式の意味を説明する活動 *ペアで考えを交流することで、自分の考えを振り返ったり、友だちの考えのよさに気付いたりすることができるようにする。 ○まとめて計算した方が、計算がしやすいことを共通理解する。 ○一つの式に表すときには、まとめてたす部分を() でくくることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※() の使い方をまとめた掲示物 ④数量の関係を簡潔に表し、() を用いた式の計算ができる。(ノートへの記述)
課題解決 (個別)	<ul style="list-style-type: none"> じゅんにたしても、まとめてたしても、答えは同じであることを知る。 P105②③で() を用いた式の計算をしたり、数量の関係を2通りの式に表したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○() 中の計算は、先にすることを確認する。 ○既習事項を活用するように伝える。 ○適応題ができたかどうかチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ③() の意味と加法に関する結合法則を理解している。(発表、ノートへの記述) ④既習事項を活用して、数量の関係を簡潔に表し、() を用いた式の計算ができる。(ノートへの記述)
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習を振り返りましょう。 次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時にがんばりたいことを考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【課題対応能力】 既習事項を活用して、() を使った問題を解いている。

本時の目標

○問題を解く人のことを考えたり、グループで問題を解き合ったりすることを通して、問題集作りに進んで取り組もうとする。

<関心・意欲・態度> →人間関係形成・社会形成能力

本時の展開

学習目標	「もんだいしゅうをつくろう」		
学習展開	学習活動 指導者の発言	*支援 ○留意点 相 相談活動 算活 算数的活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	・本時のめあてを知る。 今まで学習してきたことを生かして、問題作りに取り組みます。 ・自分のめあてを書く。 ・めあてを発表する。 ・問題作りの目的を知る。 つくった問題は、みんなが賢くなるための問題集としてまとめたいと思います。 ・問題作りの仕方を知る。 生活の中から、問題作りの場面を思い起こして考えましょう。	相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 *「問題集作り」という目的を設定することで、児童の作成意欲を高めることができるようにする。	※問題を作成するためのワークシート
課題解決 (グループ・クラス)	問題を作るときに、どのようなことに気を付けたらいいですか。 ・問題を作るときに注意点を考える。 ◎解けない問題は作らない。 ◎数字を難しくしすぎたり、簡単にしすぎたりしない。 解きたくならないような問題集にするために、どのようなことを工夫したらいいですか。 ・問題作りの工夫を考える。 ◎字を大きく丁寧に書く。 ◎絵や図をかく。 ◎ヒントをかく。 ◎難易度をかく。 ・絵やヒントを問題文に加え、解く意欲が湧くように工夫する。	○アイデアが出にくい場合は、グループで話し合って意見を出し合うようにする。 ○内容が、既習事項から逸脱しないようにする。 ○アイデアが出にくい場合は、グループで話し合って意見を出し合うようにする。	関問題を解く人のことを考えたり、グループで問題を解き合ったりすることを通して、問題集作りに進んで取り組んでいる。(問題文、問題を作成している様子)
課題解決 (グループ)	・つくった問題を、友だちと解き合うことで、問題文の校正を行う。 できた問題をグループで解き合ひましょう。解けない問題や、わかりにくい問題はありますか？ ・改善点を指摘し合い、よりよいものに仕上げる。 ・絵や図をかいたり色を塗ったりして仕上げる。 ・早く考えられた児童は、問題文を見やすくなるような工夫をしたり、まだできていない友だちの相談相手にのったりする。 ・ワークシートを提出する。	○集まったワークシートを印刷し、問題集を完成させる。	【人間関係形成・社会形成能力】 ・問題に取り組む人が、解きたくならないような工夫を考えている。 ・グループで作った問題を解き合い、指摘し合ったり、訂正を加えたりしている。
振り返り	今日の学習を振り返りましょう。 ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと	○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時にがんばりたいことを考えたりする。	

本時の目標

○買い物遊びをペアで取り組みながら、 $>$ 、 $<$ 、 $=$ の意味と使い方を理解することができるようにする。<知識・理解>

→人間関係形成・社会形成能力

本時の展開

学習目標	「 $>$ 、 $<$ 、 $=$ のきごうのいみを知ろう。」		
学習展開	<p>学習活動 指導者の発言</p>	<p>*支援 ○留意点 相相談活動 算活算数的活動</p>	<p>評価の視点 (評価方法) ※準備物</p>
<p>課題設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 今日は新しい記号を勉強します。 ・自分のめあてを書く。 ・めあてを発表する。 ・お買い物遊びをすることを知らせる。 隣の人とお買い物ゲームをします。エンピツと消しゴムを一つずつ買ったとき、いくらになるか、計算してみましょう。 ・P106①の文房具屋で買い物をしている場面をイメージして、課題を把握する。 	<p>相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。</p> <p>*児童の興味を喚起するような挿し絵を提示したり、具体物を準備したり、劇をしたりすることで、活動をイメージし、することを把握することができるようにする。</p>	<p>※挿絵 ※普通のエンピツ、消しゴム付エンピツ、キャラクターエンピツ、消しゴム ※偽銭</p>
<p>課題解決 (ペア・クラス)</p>	<p>どのような組み合わせが考えられますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆キャラクターエンピツと消しゴム ◆消しゴム付エンピツと消しゴム ◆普通のエンピツと消しゴム <p>一人の持っているお金は150円です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・150円で消しゴムと鉛筆が買えるか買えないかを考える。 ・自分の考えをペアで話し合う。 ・買える場合と買えない場合の、数と式の大小関係を明らかにする。 ・$>$、$<$、$=$の意味と使い方を知らせる。 ・$>$、$<$、$=$を使って式に表す。 	<p>○代金を式に表して求めればよいことを確かめる。</p> <p>算活等号・不等号を用いて大小関係を式に表す活動</p> <p>○既習の$>$、$<$を想起させる。 ○どのような場合に$>$、$<$、$=$を使うかを知らせる。</p>	<p>知 買い物遊びをペアで取り組みながら、$>$、$<$、$=$の意味と使い方を理解している。(発表、ノートへの記述)</p>
<p>課題解決 (ペア)</p>	<p>それでは、お買い物遊びをしてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話型に沿いながら、ペアでやり取りをする。 ・店員役は、合計が150円よりもどうなるかを客役に伝える。 ・交代しながらやってみる。 <p>所持金を160円にしたら、どうなるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所持金や商品、買える商品の数を増やすなど、パターンを変えてやってみる。 	<p>○買い物のやり取りをしながら、数の大小に目を向けるようにする。 ○買った物は、一度ノートに計算式を書いて答えを求めるようにする。</p>	<p>【人間関係形成・社会形成能力】 買い物を想定したやり取りをペアで楽しみながら行っている。</p> <p>※場合によっては電卓</p>
<p>振り返り</p>	<p>買い物遊びをしてみて気付いたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆0を考えずに計算したらわかりやすい。 ◆丁寧な言葉遣いって大切だと思った。 <p>単元の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。単元を通して、①学習のめあてに対してどうだったか。②がんばった・できたこと ③できなかったこと・わからなかったこと ④友だちのよいところ ⑤これからの学習でがんばりたいこと ・振り返り活動に取り組んで感じたことを書く。 	<p>○単元を振り返り、自己理解を深めるようにする。</p> <p>相友だちや指導者と相談し、単元通しての自分の成長を振り返る。</p>	

学習の目標 「() をつかって、まとめて計算しよう。」

◎ 計算の じゅんじょ
 ㊦ 「() をつかって、まとめて計算しよう。」

池に あひるが 17 わいました。
 そこへ 6 わ はいってきました。
 また 4 わ はいってきました。
 あひるは何わになりましたか。

はじめ
17 わ ← ?

一つの式で・・・
 $17+6+4=27$
 答え 27 わ

まとめてたすときは、() をつかって あらわします。() の中を先に計算します。
 $17+(6+4)=27$
 答え 27 わ

つぎのことをふりかえろう
 ①できたこと わかったこと
 ②わからなかったこと できなかったこと
 ③友だちのよかったところ
 ④つぎ、がんばりたいこと

どうやって計算したらいいかな？

図をかいて考えよう。

順にたして考えたときの図 $17+6=23$ $23+4=27$ 答え 27 わ	まとめて計算したときの図 $6+4=10$ $17+10=27$ 答え 27 わ	() をつかうと、まとめて計算することができます。 じゅんにたしても、まとめてたしても、答えは同じです。
--	--	--

練習問題の解答

学習の目標 「もんだいしゅうを つくろう。」

◎ 計算の じゅんじょ
 ㊦ 「もんだいしゅうを つくろう」

もんだいを作るときに、気をつけること

①ならっていることしかつかわない。
 ②とく人のことを考えて、わかりやすい もんだい文にする。
 ③字をきれいに書く。

どのようなくふうができるかな。

①絵をかく。
 ②色をぬる。
 ③ヒントをうらに書く。
 ④むずかしすぎないようにする。

じゅんにふえていく もんだい
 ふえたり へったりする もんだい
 () をつかってとく もんだい

できた問題を黒板に貼る。

できた人は・・・
 できていない人を手つだう。
 もう一つもんだいを作る
 (のせられるのは一つだけ)

つぎのことをふりかえろう
 ①できたこと わかったこと
 ②わからなかったこと できなかったこと
 ③友だちのよかったところ
 ④つぎ、がんばりたいこと

学習の目標 「>, <, = の きごうの いみを知ろう。」

◎ 計算の じゅんじょ
 ㊦ 「>, <, = のきごうの いみを知ろう」

お買いものあそび

+ =	150 円で 70 円のえんぴつと 90 円のけしゴムが買えますか。	150 は 70+90 より 小さい $150 < 70+90$
+ <	150 円で 60 円のえんぴつと 90 円のけしゴムが買えますか。	150 は 60+90 と 同じ $150 = 60+90$
+ >	150 円で 50 円のえんぴつと 90 円のけしゴムが買えますか。	150 は 50+90 より 大きい $150 > 50+90$

つぎのことをふりかえろう
 ①できたこと わかったこと
 ②わからなかったこと できなかったこと
 ③友だちのよかったところ
 ④つぎ、がんばりたいこと

第4学年 算数科 単元の指導計画案

単元	6 はしたの大きさの表し方を考えよう [小数] (9時間) 7月上旬～中旬		
目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、小数が用いられる場面に関心をもち、小数を用いるよさに気づき、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。 小数の意味と表し方及び計算の仕方について、整数の場合の考え方から類推して考えるようにする。 端数部分の大きさを小数で表したり、小数のたし算・ひき算の計算をしたりすることができるようにする。 小数の意味と表し方及び小数のたし算・ひき算の意味と計算の仕方を理解できるようにする。 		
単元目標と生き方探究教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> ※ペアやクラスでの話し合い活動を通して、考えを深めたり、広げたりすることのよさに気付いている。(人間関係形成・社会形成能力) ※単元を振り返り、自分の困りを考慮に入れながら、自分の実態にあった課題を選択している。(自己理解・自己管理能力) ※小数が、生活や社会のどのような場面でどのように使われているかということ話し合ったり、関心をもったりしている。(課題対応能力) ※単元を通しての自分のがんばりや困り、友だちのよさなどに気付いている。(キャリアプランニング能力) 		
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 算数への関心・意欲・態度 数学的な考え方 数量や図形についての技能 数量や図形についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> 小数を用いるよさがわかり、小数の加法・減法の計算の仕方を考えようとしている。 小数の意味と表し方及び計算の仕方について、算数的活動を通して、整数の場合の考え方から類推して考えている。 端数部分の大きさを、小数を用いて表すことができる。 1/10の位までの小数の加減の計算ができる。 小数について豊かな感覚を持ち、小数の意味、表し方、小数の大きさや構成の仕方を理解している。 1/10の位までの小数の加減の計算の仕方を理解している。 	
時	学習活動 (●中心活動 ・活動内容)	*支援 ○留意点 算活算数的活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物 →評価と関連している 生き方探究教育の力
1	<ul style="list-style-type: none"> ●はしたの大きさの表し方に関心をもち、小数の意味と表し方を知る。 小数という考え方や表記の仕方、計算の仕方を知り、身近にある「小数」について話し合うという単元の課題を把握する。 「小数」が使われているものや場面を知る。 ペットボトルの中のかさについて考えるという課題を把握する。 リットルますにジュースを入れる活動を通して、1.5Lのかさについて調べる。 自分なりの根拠をもって、1.5Lというかさの説明する。 1Lを10等分した一つ分の大きさを0.1Lということを知る。 2Lと3dLの場合は、2.3Lということを知る。 「小数」「小数点」「小数第1位」「整数」の意味を知る。 練習問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 算活ジュースを入れて、1.5Lのかさの量感を実感する活動 ○児童が小数についてもっている知識を把握する。 *具体物を操作することで、1.5Lのかさを体感できるようにする。 ○具体物を用意する。 *具体物を操作することで、1.5Lのかさを体感することができるようにする。 *新しい用語をまとめたものを提示することで、わかりやすく学習をまとめることができるようにする。 用語：整数、小数点 ○身の回りにある小数に関心をもちようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※小数が使われているものや場面を例示したもの ※1.5Lペットボトル ※色水 ※リットルます <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑦生活の中にある小数に関心をもちながら、はしたの大きさを小数で表そうとしている。(ノートへの記述・発言)</p> </div> <p>→課題対応能力</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ●長さや重さなどはしたの大きさを小数で表し、身のまわりから小数が使われている場面を探し出す。 小数が使われている場面を考える。 P.71④のしおりとものさしの図からしおりの長さ、「8cm2mm」を小数で表すという課題を把握する。 mmはcmを10等分したうちのの一つ分だということから考える。 自分の考えや、考えの根拠をノートに書く。 根拠を明らかにしながら自分の考えを発表する。 1mmは0.1cm、2mmは0.2cm、8cm2mmは8.2cmであることを理解する。 p71⑦の問題を解く。 1kgは1000gだから、1kgを10等分したうちの一つ分は1000gを10等分したうちのの一つ分であるから、100gだということに気付く。 練習問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小数が使われている場面を例示したり、紹介したりする。 *様々な場面で小数が使われていることを知ることで、学習に主体的に取り組むことができるようにする。 算活長さを小数で表す活動 *それぞれの単位の位取り表を掲示することで、自力解決の根拠として類推的に考えることができるようにする。 *位取りの表を使って説明することで、小数の数の仕組みをわかりやすく理解できるようにする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑧身の回りで使われている小数について、進んで話し合おうとしている。(発表の様子、ノートへの記述)</p> </div> <p>→課題対応能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ※学習をまとめたフラッシュカード ※位取りの表 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑨既習事項を生かしながら、いろいろな量を1/10の位までの小数を用いて表すことができる。(ノートへの記述)</p> </div> <p>→課題対応能力</p>

3	<p>●小数を数としてとらえ、小数の大きさや構成の仕方を整数の場合から類推して考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①の2.6の数は、整数と小数がどのように組み合わせられたかを考えるという課題を把握する。 ①の問題を解く。 小数を数直線上で数としてとらえることを知る。 ②の問題を解く。 根拠を明らかにしながら自分の考えを発表する。 「数直線」を知る。 ②の数直線上の数を小数で表す。 小数を数直線上に表して大きさ比べをする。 練習問題に取り組む。 	<p>算活 小数の大きさや構成の仕方を、算数の場合から類推して考える活動</p> <ul style="list-style-type: none"> *整数の数直線を示すことで、関連付けて考えることができるようにする。 ○「2.6は1を□こと0.1を□こ合わせた数」という問題を提示する。 *小数を数直線上に表す活動をすることで、整数の性質から、小数も同じ構造（十進位取り記数法）になっていることを、類推的な考え方でまとめることができるようにする。 ○□に入る数は、2と6以外に、0と26もあることに気付くようにする。 	<p>⑥ 小数も十進位取り記数法の仕組みになっていることを、<u>根拠を明らかにしながら考えている。</u>（ノートへの記述・発言）</p> <p>→課題対応能力</p> <p>※数直線</p>
4	<p>●小数のたし算ひき算の仕方を整数の場合を基に考え、計算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①の0.6Lと0.2Lの和と差を考えるという課題を把握する。 0.6+0.2, 0.6-0.2の計算の仕方を考える。 計算の仕方を話し合う。 ②の問題に取り組む。 ③④の問題に取り組む。 練習問題に取り組む。 	<p>算活 既習のたし算、ひき算の仕方を基に、小数の計算の仕方を説明する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> *ジュースをそれぞれリットルますに移し変える操作を演示することで、課題を把握しやすくする。 *リットルますの操作を演示することで、問題のイメージをもつことができるようにする。 ○自分の考えをどのように説明すればわかりやすく聞き手に伝わるかを考えるようにする。 *整数の場合から類推して考えることで、小数でも十進位取り記数法で同じように考えられることに気付くことができるようにする。 	<p>※リットルます ※色水 ※数直線 ※位取りの表</p> <p>⑥ 小数の加減計算の仕方を、<u>整数の場合から類推して考えている。</u>（ノートへの記述）</p> <p>→課題対応能力</p>
5	<p>●小数のたし算を筆算で求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①の道のりの和を筆算で求めるという課題を把握する。 5.4+3.2の筆算の仕方を考える。 計算の仕方を話し合い、正しい答えを見付ける。 ②の問題に取り組む、小数第一位が0の場合について自分なりの考えをもつ。 小数第一位が0の場合の計算方法をペアやクラスで話し合い、解き方を理解する。 練習問題に取り組む。 	<p>算活 既習の筆算の仕方を基に、小数の筆算の仕方を説明する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題意をとらえやすくするために、図を用意する。 *整数の筆算で気を付けることを考えることで、小数の場合を考える際の手立てとなるようにする。 ○整数の場合と同様に小数点や位をそろえることの大切さに気付くようにする。 *問題や答えが整数の場合、小数第一位の0をどう考えればよいかということをペアで話し合うことで、自分なりの考えをもつことができるようにする。 	<p>※数直線</p> <p>⑥ 小数のたし算の仕方を<u>ペアで話し合うことで、正しく筆算することができる。</u>（ノートへの記述）</p> <p>→人間関係形成・社会形成能力</p>
6	<p>●小数のひき算を筆算で求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①の重さの差を筆算で求めるという課題を把握する。 9.8-7.5の筆算の仕方を考える。 計算の仕方を話し合い、正しい計算方法について考える。 ②の答えの一の位が空位になる計算3.6-2.8の計算の仕方を話し合う。 ③の問題に取り組む、答えを全体場で確かめる。 練習問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> *挿絵を掲示することで、題意をイメージしやすくする。 算活 0.1を単位として、位ごとに分けて考える活動 ○たし算の場合と同様に小数点や位をそろえることの大切さに気付くようにする。 ○答えの一の位が0の場合、どう考えればよいか話し合うようにする。 ○引かれる数が整数の場合の計算方法を、位取りの表や筆算の図、0.1を単位とする考え方などで、考えるようにする。 	<p>⑥ 既習事項を活用して、<u>小数のひき算を正しく筆算することができる。</u>（ノートへの記述）</p> <p>→課題対応能力</p> <p>※位取りの表 ※数直線</p>

<p>7 ・ 8</p>	<p>● 小数の意味と表し方，計算の仕方がわかり，小数で表したり，加減計算したりする。</p> <p>・ 学習プリントを選択して取り組む。</p> <p>① かさや長さを小数で表す問題 ② 単位を換える問題 ③ 数としての小数の問題 ④ 文章問題と魔法陣 ⑤ 計算プリント</p> <p>・ 学習プリントができれば，自分で丸付けをして，指導者に見せ，ノートに貼り，次の問題に取り組む。</p> <p>・ 全ての問題を解いたら，教科書の練習問題に取り組む。</p>	<p>○ 課題別のプリントを準備する。</p> <p>算活 自分の習熟に合わせて自ら課題プリントを選択して取り組む活動</p> <p>* 学習課題を自ら選ぶようにすることで，学習に取り組む意欲を高めることができるようにする。</p> <p>* 取り組むプリントを選択する際，また，わからない問題が出てきた場合に，指導者と相談することで，課題を選択したり解決したりすることができるようにする。</p> <p>○ 一度わからなかったところは，プリントを持ち帰り，家で繰り返し練習させる。</p>	<p>※学習プリント</p> <p>関 自分の課題を把握した上で自ら学習課題を選び，意欲的に練習問題に取り組もうとしている。(課題に取り組む様子)</p> <p>→自己理解・自己管理能力</p> <p>技 既習事項を生かして小数で表したり，加減計算をしたりすることができる。(学習プリントへの記述)</p> <p>→課題対応能力</p> <p>知 既習事項を想起し，小数の意味と表し方，計算の仕方を理解している。(学習プリントへの記述)</p> <p>→課題対応能力</p>
<p>9</p>	<p>● 「まほうじん」，「小数で表そう」，「二つのコップを使って」 「小数新聞」の四つのコースから課題を選択し，進んで小数の学習のまとめに取り組む。</p> <p>・ 自分が取り組みたい課題を選択し，その選択理由をワークシートに書く。</p> <p>・ 課題を自ら発展させて，小数に関する課題を設定する。</p> <p>・ 課題に取り組んでわかったことやまとめたことを課題別に発表し，クラス全体で交流する。</p> <p>・ 単元を通して振り返りの記述を見返し，自分の成長が何かを考える。</p> <p>・ この単元で学習したことは，これからの自分の生活でどのように生かせそうかを考える。</p>	<p>○ 今までの学習を振り返られるように，壁面の掲示物に着目させる。</p> <p>* モデルとなるものを例示することで，取り組む課題内容をわかりやすく理解することができるようにする。</p> <p>* 選択した理由をワークシートに書かせることで，根拠をもってコースを選択することができるようにする。</p> <p>○ 友だちのがんばりにも目を向けるようにする。</p> <p>* 振り返りの記述を基に単元を振り返ることで，自分の成長や困りを感じられるようにする。</p>	<p>※ワークシート</p> <p>関 課題を自ら選択し，進んで学習のまとめをしようとしている。(学習の様子・ワークシートへの記述)</p> <p>→自己理解・自己管理能力</p> <p>関 単元を振り返り，自分の学習への気付きや困り，また，友だちのよさを見つけようとしている。(振り返りの記述)</p> <p>→キャリアプランニング能力</p>

本時の目標

○生活の中にある小数に関心を持ちながら、はしたの大きさを小数で表そうとする。<関心・意欲・態度> →課題対応能力

本時の展開

学習目標	「はしたの大きさを、小数で表そう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・「はしたの大きさの表し方」について学習するということを知る。 ・本時の「学習の目標」を知る。 ・この算数の時間にがんばりたいことを書く。 ・「はした」の意味について知る。 <p>“はした”の表し方を考えましょう。</p>	<p>相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <p>*自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。</p>	<p>※小数の使われているものや場面を例示した写真</p>
課題解決 (個別)	<p>ペットボトルの中のジュースがどのくらい入っているか調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リットルますに色水を入れてかさを調べる。 ・グループで相談しながら、かさを記録する。 ・1Lと何dLというかさについて、考える。 	<ul style="list-style-type: none"> *具体物を操作することで、1.5Lのかさを体感できるようにする。 ○具体物をグループに1セット準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※1.5Lの色水が入ったペットボトル ※リットルます二つ
課題解決 (クラス)	<p>1L○dLを小数で表す方法を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・dLは、1Lを10等分したうちの1つ分であることから、1Lを10等分した1こ分のかさを、0.1Lということを知る。 ・「小数の書き方や読み方」、「小数点」、「小数第1位」などの用語を知る。 ・「整数」について知る。 ・適応題に取り組む。 ・小数で表すことのよさについて話し合う。 <p>今度の算数の時間までに、身の回りにある小数について調べてきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *十進位取り記数法に触れ、位取りの表を提示することで、整数と小数の仕組みについて考えることができるようにする。 *新しい用語をまとめたものを提示することで、わかりやすく学習をまとめることができるようにする。 ○身の回りにある小数に関心をもつようにする。 	<p>※位取りの表</p> <p>関生活の中にある小数に関心を持ちながら、はしたの大きさを小数で表そうとしている。(ノートへの記述・発言)</p> <p>↓</p> <p>【課題対応能力】 ペットボトルの1.5Lという表記や、その実際のかさに関心を示している。</p> <p>※学習をまとめるフラッシュカード</p>
振り返り	<p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。 	

本時の目標

○身の回りで使われている小数について、進んで話し合おうとする。<関心・意欲・態度> →課題対応能力

○既習事項を生かしながら、1/10の位までの小数を用いて表すことができるようにする。<技能> →課題対応能力

本時の展開

学習目標	「長さや重さでも、はしたの大きさを小数で表せるようになろう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<p>小数点は、どのようなところに使われていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小数点の使われているものについて交流する。 ・この算数の時間の自己目標を書く。 ・小数の読み方や書き方、位等を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小数が使われている場面を例示したり、紹介したりする。 *様々な場面で小数が使われていることを知ることで、学習に主体的に取り組むことができるようにする。 相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 ○掲示物等で、小数について振り返るようにする。 	<p>※前時の掲示物</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>身の回りで使われている小数について、進んで話し合おうとしている。(発表の様子、ノートへの記述)</p> </div> <p>【課題対応能力】 身の回りの小数に関心をもち、進んで話し合いに参加している。</p>
課題解決 (個別)	<p>しおりの長さを小数で表してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長さの場合も、かさのときと同じように考えて、1cmを10等分した一つ分を0.1cmと考える。 ・自分の考えを、根拠を明らかにしながらノートに記入する。 <p>p.71の△5の問題を解きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位取りの表を基にして類推的に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> *拡大した掲示物を使って説明することで、本時の課題を明確に理解できるようにする。 *位取りの表を提示することで、かさの場合と関連付けて考えることができるようにする。 *それぞれの単位の位取り表を掲示することで、自力解決の根拠として類推的に考えることができるようにする。 	<p>※拡大した掲示物 ※位取りの表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>既習事項を生かしながら、いろいろな量を1/10の位までの小数を用いて表すことができる。(ノートへの記述)</p> </div>
課題解決 (クラス)	<p>自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1mmは0.1cm, 2mmは0.2cm, 8cm 2mmは8.2cmであることを話し合う。 ・1kgは1000gだから、1kgを10等分したうちの一つ分は100gを10等分したうちの一つ分であるから、100gだということに気付く。 ・長さや重さの場合も、かさと同じように考えられることを知る。 ・適応題に取り組む。 ・答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> *位取りの表を使って説明することで、小数の数の仕組みをわかりやすく理解できるようにする。 	<p>【課題対応能力】 位取りの考え方や整数の仕組みを想起して自力解決に向かっている。</p> <p>※学習をまとめるフラッシュカード</p>
振り返り	<p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。 	

本時の目標

○小数も十進位取り記数法の仕組みになっていることを、根拠を明らかにしながら考えるようにする。<数学的な考え方> →課題対応能力

本時の展開

学習目標	「小数の仕組みを、整数の場合から考えてみよう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	小数の仕組みについて勉強します。 ・本時の「学習の目標」を知る。 ・この時間の自己目標を書く。 前の復習です。3.4kgは、何kg何gですか。 ・1kgは1000g、0.1kg=100gということから、考える。 2.6は、整数と小数がどのように組み合わせられたものでしょうか。	相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 *位を意識させて復習することで、本時の学習につなげることができるようにする。	
課題解決 (個別・ペア)	数直線を見ながら、次の問題の□に入る数を考えて、P.72の①を解きましょう。 ・「2.6は1を□こと0.1を□こ合わせた数」 ・位ごとに考える。 考えたことを発表しましょう。 ・位取りの表から、位ごとに考える。 ・数直線から、整数と小数の組み合わせを考える。 ・十進位取り記数法について知る。 ・ペアで、自分の考えを伝え合う。 ・数直線について知る。 数直線を見ながら、P.72の②を解きましょう。	*整数の数直線を示すことで、関連付けて考えることができるようにする。 ○「2.6は1を□こと0.1を□こ合わせた数」という問題を提示して考えるようにする。 *ペアで考えを伝え合うことで、自分なりの根拠をもって自力解決に取り組むことができるようにする。 ○10ごとに位が上がっていくという仕組みを説明できるようにする。	※位取りの表 ※数直線 ④ 小数も十進位取り記数法の仕組みになっていることを、根拠を明らかにしながら考えている。(ノートへの記述・発言)
課題解決 (クラス)	自分の考えを発表しましょう。 ・根拠を明らかにしながら、数直線をもとにして考えた答えを発表する。 整数と小数で、似ているところはありませんか。 ・数直線の仕組みや、位取りの表を見ながら、整数と小数の数の仕組みについて話し合う。 ・適応題に取り組む。	*小数を数直線上に表すことで、整数の性質から、小数も同じ構造(十進位取り記数法)になっていることを、類推的な考え方でまとめることができるようにする。 ○□に入る数は、2と6以外に、0と26もあることに気付くようにする。	【課題対応能力】 小数の仕組みについて、整数の仕組みから類推して考えている。
振り返り	今日の学習を振り返りましょう。 ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと	○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。	

本時の目標

○小数の加減計算の仕方を、整数の場合から類推して考えるようにする。<数学的な考え方> →課題対応能力

本時の展開

学習目標	「小数のたし算、ひき算の仕方を考えよう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<p>小数のたし算、ひき算について考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の目標を知る。 ・この時間の自己目標を書く。 ・二つのリットルますに入っている色水を、合わせたり差を求めたりするという活動を知る。 	<p>相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 ○具体物を用意する。 *リットルますの操作を演示することで、取り組む活動を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※リットルます3つ ※色水
課題解決 (個別)	<p>合わせた場合を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リットルますを操作して、二つの色水のかさを合わせる演示を見る。 ・計算式を考え、ノートに記入する。 <p>違いを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リットルますを操作して、色水を減らす演示を見る。 ・計算式を考え、ノートに記入する。 ・0.6は0.1が6こ分ということから考える。 ・整数の場合を思い出し、同じ位どうしであれば計算できるということから考える。 <p>p.73の $\frac{1}{2}$ の問題を解きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *数直線の使い方を知らせることで、考えるときの根拠として活用することができるようにする。 *リットルますの操作を演示することで、問題のイメージをもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※位取りの表 ※数直線 <p>考 小数の加減計算の仕方を、整数の場合から類推して考えている。(ノートへの記述)</p>
(クラス) 課題解決	<p>自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを、根拠を明らかにしながら説明する。 ・0.1の何個分かで考えたり、数直線で考えることで小数でも簡単に加減計算ができることを知る。 ・適応題に取り組む。 ・答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをどのように説明すればわかりやすく聞き手に伝わるかを考えるようにする。 *整数の場合から類推して考えることで、小数でも十進位取り記数法で同じように考えられることに気付くことができるようにする。 	<p>【課題対応能力】</p> <p>既習事項を活用して、自力解決に取り組んでいる。</p>
振り返り	<p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。 	

本時の目標

○小数のたし算の仕方をペアで話し合うことで、正しく筆算することができるようにする。<技能>→人間関係形成・社会形成能力

本時の展開

学習目標	「小数のたし算の筆算をできるようになろう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<p>小数のたし算の筆算を勉強しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の「学習の目標」を知る。 この時間の自己目標を書く。 <p>整数の筆算で気を付けることは、どのようなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 12+35 という計算を筆算でするときに気を付けること思い出す。 	<p>相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <p>*自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。</p> <p>○題意をとらえやすくするために、図を用意する。</p> <p>*整数の筆算で気を付けることを考えることで、小数の場合を考えるときの手立てとして整数の筆算の仕方を活用することができるようにする。</p>	※筆算の図
課題解決 (個別)	<p>次の問題を筆算で解きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題</p> <p>2つのコースの道のりは、5.4kmと3.2kmです。2つのコースをまわると、何kmになりますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 5.4を0.1が54こ分として考え、整数として計算する。 位取りの表を活用しながら、位をそろえて計算する。 ペアで相談しながら、問題を解く。 	<p>*位取りの表や筆算の図など、前時などで使った掲示物を用意することで、既習内容を、本時の自力解決に生かすことができるようにする。</p> <p>○0.1を単位として、位ごとに分けて考えるようにする。</p>	※題意を表す挿絵 ※位取りの表
課題解決 (ペア・クラス)	<p>計算の仕方を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数の場合や、前時の学習内容を活用して、自分の考えを発表する。 筆算で計算するときの3点のポイントをまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> 位をそろえて書く。 整数のたし算と同じように計算する。 上の小数点にそろえて答えの小数点をうつ。 <p>整数+小数の場合はどう計算しますか。</p> <p>たして小数第一位の数が0になったときはどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えを交流する。 ペアで話し合う。 小数第1位の位が0の場合を、位取りの表で考える。 <p>・適応題に取り組む。</p>	<p>○整数の場合と同様に小数点や位をそろえることの大切さに気付くようにする。</p> <p>*位取りの表を提示することで、整数と小数の仕組みについて考えることができるようにする。</p> <p>*問題や答えが整数の場合、小数第一位の0をどう考えればよいか話し合うことで、自分なりの考えをもつことができるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>⊕ 小数のたし算の仕方をペアで話し合うことで、正しく筆算することができる。(ノートへの記述・発言)</p> </div> <p>【人間関係形成・社会形成能力】 ペアでの話し合いを通して考えを深めている。</p> <p>※筆算の仕方をまとめたフラッシュカード</p>
振り返り	<p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。 <ol style="list-style-type: none"> がんばった・できたこと 困り(わからなかったこと) 友だちのすごいところ 次の時間にがんばりたいこと 	<p>○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。</p> <p>相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。</p>	

本時の目標

○既習事項を活用して、小数のひき算を正しく筆算することができるようにする。<技能> →課題対応能力

本時の展開

学習目標	「小数のひき算の筆算をできるようになろう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<p>小数のひき算の筆算を勉強しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の「学習の目標」を知る。 この時間の自己目標を書く。 <p>筆算で気を付けることはどのようなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆算で計算するときの3点のポイントを確認する。 <ol style="list-style-type: none"> ①位をそろえて書く。 ②整数のたし算と同じように計算する。 ③上の小数点にそろえて答えの小数点をうつ。 	<p>相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 *前時の「筆算で気を付けること」を思い出すことで、ひき算の場合を考えるときの手立てとして活用することができるようにする。 	<p>※前時を振り返るための掲示物</p>
課題解決 (個別)	<p>次の問題を筆算で解きましょう。</p> <p>問題 お父さんのリュックサックの重さは9.8kgで、ひろきさんの重さは7.5kgです。 重さのちがいは何kgですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の筆算の方法を活用して問題を解く。 なぜこのやり方が可能なのか、根拠も考える。 	<ul style="list-style-type: none"> *挿絵を掲示することで、題意をイメージしやすくする。 ○位取りの表や筆算の図を用いて、根拠を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ※題意を表す挿絵 ※位取りの表 ※筆算の図
課題解決 (ペア・クラス)	<p>計算の仕方を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数の場合や、前時の学習内容を活用して、自分の考えを発表する。 <p>一の位が0になる場合は、どのように考えればいいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適応題に取り組む。(p.74 ②) 考えを交流する。 ペアで話し合う。 位取りの表で考えながら、小数第1位の位における0の扱い方について知る。 <p>整数から小数を引く場合は、どう考えたらいいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 適応題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○たし算の場合と同様に小数点や位をそろえることの大切さに気付くようにする。 ○答えの一の位が0の場合、どう考えればよいか話し合うようにする。 ○引かれる数が整数の場合の計算方法を、位取りの表や筆算の図、0.1を単位とする考え方などで、考えるようにする。 	<p>㊦ 既習事項を活用して、小数のひき算を正しく筆算することができる。(ノートへの記述・発言)</p> <p>【課題対応能力】 既習事項を生かして小数の問題を解いている。 ※学習をまとめるフラッシュカード</p>
振り返り	<p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。 <ol style="list-style-type: none"> ①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。 	

本時の目標

- 自分の課題を把握した上で自ら学習課題を選び、意欲的に練習問題に取り組もうとする。<関心・意欲・態度>→自己理解・自己管理能力
- 既習事項を生かして小数で表したり、加減計算をしたりすることができるようにする。<技能> →課題対応能力
- 既習事項を想起し、小数の意味と表し方、計算の仕方を理解できるようにする。<知識・理解> →課題対応能力

本時の展開

学習目標	7時間目「小数の練習問題をくり返しとこう。」 8時間目「小数の計算を、正確に早くとこう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<p>今日はいろいろな問題を解いて、正確にできるようにがんばりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントを自分の習熟に合わせて選択し、解き進めるという本時の流れを知る。 	<p>相 指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <p>*自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。</p>	
課題解決 (個別)	<p>自分の成長につながるように、学習プリントを選んでどんどん問題を解きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の理解に合わせて学習プリントを選び、答え合わせをしながら、練習を進める。 ・学習プリントができた児童は、自分で丸付けをして、指導者に見せ、ノートに貼り、次の問題を解く。 ・全ての問題を解いた児童は、計算問題に取り組む。 	<p>*学習課題を自ら選ぶことで、学習に主体的に取り組むことができるようにする。</p> <p>○課題別のプリントを準備する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①かさや長さを小数で表す問題 ②単位を換える問題 ③数としての小数の問題 ④文章問題と魔法陣 ⑤計算プリント <p>相 取り組むプリントを選択する際、また、わからない問題が出てきた場合に、指導者と相談し、課題を選択したり解決したりする。</p> <p>○一度わからなかったところは、プリントを持ち帰り、家で繰り返し練習させる。</p>	<p>※学習プリント ※学習プリントの答え</p> <p>関 自分の課題を把握した上で自ら学習課題を選び、意欲的に練習問題に取り組もうとしている。(課題に取り組む様子)</p> <p>【自己理解・自己管理能力】 今までの学習を振り返って自分の習熟にあった課題を選択している。</p> <p>技 既習事項を生かして小数で表したり、加減計算をしたりすることができる。(学習プリントへの記述)</p>
振り返り	<p>プリントを自分で選んで練習してみてどうでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を交流する。 <p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<p>○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。</p> <p>相 友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。</p>	<p>【課題対応能力】 今までの学習内容を活用しながら、課題解決に主体的に取り組んでいる。</p> <p>知 既習事項を想起し、小数の意味と表し方、計算の仕方を理解している。(学習プリントへの記述)</p> <p>【課題対応能力】 今までの学習内容を活用しながら、課題解決に主体的に取り組んでいる。</p>

本時の目標

○課題を自ら選択し、進んで学習のまとめをしようとする。<関心・意欲・態度> →自己理解・自己管理能力

○単元を振り返り、自分の学習への気づきや困り、また、友だちのよさを見つけようとする。<関心・意欲・態度>

→キャリアプランニング能力

本時の展開

学習目標	「取り組む問題を自分で決めて、小数の学習をまとめよう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<p>自分で取り組む問題を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の目標を知る。 この算数の時間の自己目標を書く。 <p>どのコースを選びますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「まほうじんコース」「小数で表そうコース」「二つのコップコース」「小数新聞コース」から自分が取り組みたい課題を選択する。 選択した理由を発表する。 	<p>相 指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 ○今までの学習を振り返られるように、壁面の掲示物に着目させる。 *モデルとなるものを例示することで、取り組む課題内容をわかりやすく理解することができるようにする。 *選択した理由をワークシートに書かせることで、根拠をもってコースを選択することができるようにする。 <p>相 振り返りカードをもとに指導者と相談し、自ら課題別のコースを選択する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※ワークシート ※前時までの掲示物
(個別) 課題解決	<p>選んだ問題を解きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自ら学習する」という意識を大切にしながら、自力解決に向かう。 わからないところは、友だちや指導者と相談する。 自分でさらに問題をつくったり、つくった問題を友だちと解き合ったりする。 	<p>相 計算方法や、記録の仕方がわからない場合は、指導者か友だちに相談し、確認する。</p>	<p>関 課題を自ら選択し、進んで学習のまとめに取り組もうとしている。(ノートや新聞、ワークシートへの記述)</p>
(クラス) 課題解決	<p>自分の力で問題を解いてみてわかったことや感じたことを交流しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べてきたことやわかったこと、感想などを交流する。 	<p>○課題に進んで取り組んでいた児童の様子を全体に紹介する。</p>	<p>【自己理解・自己管理能力】 単元を振り返り、自分の困りを考慮に入れながら、自分の実態に合った課題を選択している。</p>
振り返り	<p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> この時間でわかったことや困り、これからの生活で生かしたいこと書く。 選択課題に取り組んだことについて、感想を発表する。 <p>単元の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。単元を通して、①学習のめあてに対してどうだったか。②がんばった・できたこと ③できなかったこと・わからなかったこと ④友だちのよいところ ⑤これからの学習でがんばりたいこと 振り返り活動に取り組んで感じたことを書く。 	<p>○自分で課題を選択して主体的に課題に取り組んだことについて振り返るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *振り返りの記述を基に単元を振り返ることで、自分の成長や困りを感じられるようにする。 <p>相 友だちや指導者と相談し、単元通しての自分の成長を振り返る。</p>	<p>関 単元を振り返り、自分の学習への理解や困り、友だちのよさを見つけようとしている。(振り返りの記述)</p> <p>【キャリアプランニング能力】 単元を通しての自分のがんばりや困り、友だちのよさなどに気付いている。</p>

学習の目標 「はしたの大きさを、小数で表そう。」

⑥ はしたの大きさの表し方を考えよう

ペットボトル

1Lと 5dL = 1L5dL = 1.5Lは、1Lと 0.5Lを合わせたもの

1.5Lの5は、5dLの5である。

振り
返り
カード
の
書
き
方

1Lを10等分したうちのの一つ分。0.1L

2.3Lは、2Lと0.3Lの合わさった数。

小数
0.1L (れい点一リットル)
0.1, 0.3, 2.3のような数を**小数**という。
「.」小数点
小数第1位
整数 (0, 1, 2...)

学習の目標 「長さや重さでも、はしたの大きさを小数で表せるようになる。」

⑥ はしたの大きさの表し方を考えよう

小数
0.1L (れい点一リットル)
0.1, 0.3, 2.3のような数を**小数**という。
「.」小数点
小数第1位
整数 (0, 1, 2...)

長さを小数で表そう

しおりの長さは何cmといえますか。

(しおりと定規の拡大図)

(児童の考え)

m, kg の場合について考えよう。

1m60cmは何mでしょう。

右の位取り表から考えて1.6m

2kg700gは何kgですか。

3.4kgは何kg何gですか。

m		cm
一の位	小数第一位	小数第二位
1	6	0

2.7kg

3kg400g

学習の目標 「小数の仕組みを、整数の場合から考えてみよう。」

⑥ はしたの大きさの表し方を考えよう

2.6は、1を何こと0.1を何こ合わせた数ですか。また、2.6は、0.1を何こあつめた数ですか。

数直線

(数直線の図)

2.6は1を□こと0.1を□こ合わせた数

□に入る数字は?

1を2こと0.1を6こ (0.6こ?)

0.1を26こでもいいよね。

一の位	小数第一位
2	6

数直線をおぼえよう。

数は、数直線の点で表すことができます。

数直線では、右にいくほど数が大きくなっています。

③ 0.1を28こ集めた数は何ですか。

(数直線の図)

一の位	小数第一位
2	8

④ 3.8は、1を何こと、0.1を何こあわせた数ですか。また、3.8は0.1を何こあつた数ですか。

(数直線の図)

一の位	小数第一位
3	8

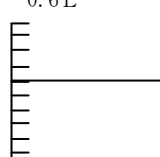
学習の目標 「小数のたし算，ひき算の仕方を考えよう。」

⑥ はしたの大きさの表し方を考えよう

ふたつのかさをたしたりひいたりしよう。

数直線で考えよう (数直線の図) (数直線の図)

0.6L



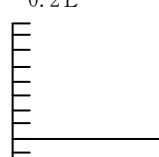
たすとき

$0.6 + 0.2$

ひくとき

$0.6 - 0.2$

0.2L



0.8? 8? 0.62?

0.4? 4? 0.62?

L	dL
一の位	小数第一位
0	6
0	2

位をそろえると・・・

整数の計算と同じ??

問題 $1.8 + 0.7$

$2.3 - 0.6$

問題の答え

p. 73 の③④の問題

まとめ

- 同じ位の数字は，たしたりひいたりできる。
- くり上がり，くり下がり，となりの位から10かりてくる。

学習の目標 「小数のたし算の筆算をできるようにしよう。」

⑥ はしたの大きさの表し方を考えよう

2つのコースの道のりは，5.4km と 3.2km です。

2つのコースをまわると，何 km になりますか。

5.4 + 3.2 = 8.6 答え 8.6km

筆算の仕方を考えましょう。

(筆算の図と，筆算するときに必要なこと)

整数+小数のときはどうするの？	答えが整数になったらどうするの？
-----------------	------------------

(筆算の図)

(筆算の図)

小数のたし算をするときに気をつけることはなんですか。

- 同じ位の数字は，たしたりひいたりできる。
- くり上がり，くり下がり，となりの位から10かりてくる。

学習の目標 「小数のひき算の筆算をできるようにしよう。」

⑥ はしたの大きさの表し方を考えよう

お父さんのリュックサックの重さは 9.8kg で，ひろきさんのは 7.5kg です。

重さのちがいは何 kg ですか。

9.8 - 7.5 = 1.3 答え 1.3kg

筆算の仕方を考えましょう。

(筆算の図と，筆算するときに必要なこと)

整数-小数のときはどうするの？	答えが整数になったらどうするの？
-----------------	------------------

(筆算の図)

(筆算の図)

小数のひき算をするときに気をつけることはなんですか。

- 同じ位の数字は，たしたりひいたりできる。
- くり上がり，くり下がり，となりの位から10かりてくる。

→整数と同じ仕組み

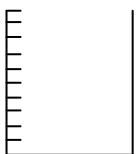
※7, 8時間目はプリントによる繰り返し練習の時間のため，板書計画はない。

学習の目標

「取り組む問題を自分で決めて、小数の学習をまとめよう。」

⑥ はしたの大きさの表し方を考えよう

1L



小数
0.1L (れい点ーリットル)
0.1, 0.3, 2.3のような数を
小数という。
「.」小数点
小数第1位
整数 (0, 1, 2…)

(「二つのコップを使っ
て」の説明)

(「小数新聞」の説明)

コースをえらぼう

(色ぬりコースの説明)

(小数魔方陣の説明)

第5学年 算数科 単元の指導計画案

単元	3 ならした大きさ [平均]		(4時間) 6月下旬
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の特徴を表す値として平均を用いるよさに気付き、進んで活用しようとする態度を育てる。 ・平均の考えを用いて、統計的に考察したり、表現の仕方を工夫したりするようにする。 ・集団の特徴を表す値として平均を求めたり、活用したりできるようにする。 ・平均についての意味、見方や調べ方を理解するようにする。 		
単元目標と生き方探究教育との関連	<p>※ペアで協力することで、“ならす”という活動をスムーズに行っている。(人間関係形成・社会形成能力)</p> <p>※習得した平均に関する知識・技能を活用し、表を読み取ったり、全体の個数を求めて全体の平均を求めたりしている。(課題対応能力)</p> <p>※学習した平均の考え方を生活に生かそうとしている。(課題対応能力)</p> <p>※単元を通しての自分のがんばりや困り、友だちのよさに気付いている。(キャリアプランニング能力)</p>		
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・算数への関心・意欲・態度 ・数学的な考え方 ・数量や図形についての技能 ・数量や図形についての知識・理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の特徴を表す値として平均を用いるよさに気付き、身の回りにある事柄について統計的な考察をしたり、調べようとしていたりしている。 ・平均の考えを用いて、身の回りにある事柄について統計的に考察したり、表現の仕方を工夫したりしている。 ・集団の特徴を表す値として平均を求めたり、活用したりすることができる。 ・集団の特徴を表す値として用いられる平均の意味や求め方、調べ方を理解している。 	
時	学習活動 (●中心活動 ・活動内容)	*支援 ○留意点 算活 算数的活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物 →評価と関連している 生き方探究教育の力
1	<p>●平均の意味と求め方を理解し、進んで調べようとする。</p> <p>単元の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“ならした大きさ(平均)”の意味と求め方を知り、身の回りにあるならすということについて考えたり調べたりするという単元の課題を把握する。 ・ならしたことのある経験について話し合う。 ・かさの違う薬品(色水)の入った3つの試験管をならす活動をもとにして、ならす方法について考える。 ・薬品のかさをならす活動をペアで行う。 ・薬品の活動で体験したことを生かして、課題解決に取り組む。 ・ならした活動を計算式で考える。 ・平均について知る。 ・練習問題に取り組む。 	<p>*プレゼンテーションソフト活用することで、課題把握をしやすくする。</p> <p>○ペアごとに具体物を用意する。</p> <p>算活実際に色水などを用いて示したり、図を用いたりして「ならす」という意味を考える活動</p> <p>*ならす作業を体験することで、平均を求める計算式を考えるときに、考える手立てとなるようにする。</p> <p>○平均という用語を知らせる。</p> <p>○電卓を使ってもよいこととする。</p> <p>*「平均」が活用されている場面を紹介することで、学習していることと生活との結びつきを感じることができるようになる。</p>	<p>※プレゼンテーションソフト</p> <p>※ビーカー</p> <p>※試験管3本</p> <p>※色水</p> <p>知ペアで「ならす」という活動を通して、平均の意味を理解している。(ノートへの記述)</p> <p>→人間関係形成・社会形成能力</p> <p>※フラッシュカード</p> <p>※電卓</p> <p>関平均の意味がわかり、身の回りの平均について調べようとしている。(活動の様子・ノートへの記述)</p> <p>→課題対応能力</p>
2	<p>●いろいろな場面で平均値を求め、それを問題解決に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時を振り返り、平均の求め方を確認する。 ・身近にある平均について考え、生活の中に平均という考え方が生かされていることを知る。 ・図書室から曜日ごとに借りた本の冊数の表から、平均の考えを用いて解決するという課題を把握する。 ・借りた冊数が0冊の日をどう判断し、その根拠は何かをペアで話し合い、ノートに書く。 ・借りた冊数が0冊の日も日数に入れることを知る。 ・平均は、小数になることがあることを知る。 ・1日に借りる平均の冊数から、20日間で借りる冊数を予想する方法を考える。 ・“平均”という言葉聞いた経験を話し合う。 ・30日間の場合も考える。 ・練習問題に取り組む 	<p>*身近にある「図書室」での場面を設定することで、学習課題に関心をもつことができるようにする。</p> <p>*プレゼンテーションソフトを使って説明することで、表の意味や題意を把握しやすくするようにする。</p> <p>算活表から平均をもとめるには、何と何が必要かについて考え1日の平均冊数を求める活動</p> <p>*ペアで相談することで、自分なりの根拠をもって自力解決に取り組むことができるようにする。</p> <p>○プレゼンテーションソフトを使って、学習のまとめを提示するようにする。</p> <p>○電卓を使ってもよいこととする。</p>	<p>※プレゼンテーションソフト</p> <p>※フラッシュカード</p> <p>考平均を活用して課題解決する方法を、根拠を明らかにしながら考えている。(ノートへの記述)</p> <p>→課題対応能力</p> <p>※電卓</p>

3	<ul style="list-style-type: none"> ●いくつかの部分の平均を知り、全体の平均を求めることができる。 ・いくつかの部分の平均を活用して、全体のご数を求めたあと、全体の平均を求める問題を解くことを知る。 ・全体のご数と全体の人数から、全体の平均を求める。 ・(全体の平均) = (全体の合計) ÷ (全体のご数)であることから入った玉の数と玉入れに参加した全体の人数がわかれば、全体の平均がわかることを理解する。 ・練習問題に取り組む。 	<p>算活表から全体の平均を出すためには何と何が必要かについて考え、平均を求める活動</p> <p>*プレゼンテーションソフトを使って説明したり、表を提示したりすることで、題意を把握しやすくなるようにする。</p> <p>○プレゼンテーションソフトで、学習のまとめを提示する。</p> <p>○電卓を使ってもよいこととする。</p>	<p>※プレゼンテーションソフト</p> <p>技いくつかの部分の平均を知り、それを活用して全体の平均を求めることができる。(ノートへの記述)</p> <p>→課題対応能力</p> <p>※電卓</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ●「自分の歩幅」の平均を求めることで、およその距離を歩幅で求める。 ・自分の歩幅で、距離や長さを測ることができることを知る。 ・自分の歩幅を調べ、それを活用して廊下や教室、体育館等の長さを調べるとい課題を知る。 ・なぜ平均を出すことが大切か話し合う。 ・自分の歩幅を測り、平均を算出する。 ・調べた結果を発表したり、交流したりする。 <p>●単元を振り返り、自己実現に向けての自己評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通しての振り返りの記述を見返し、自分の成長について考える。 ・この単元で学習したことは、これからの自分の生活でどのように生かすことができるかを考える。 	<p>算活平均を用いて自分の歩幅を調べたり、歩幅を使っているいろいろな長さを概算する活動</p> <p>○ワークシートや掲示物等を見て、歩幅の平均を測る方法を知る。</p> <p>○電卓を使ってもよいこととする。</p> <p>*調べたこととの交流を行うことで、平均の利便性に気付くことができるようにする。</p> <p>○友だちのがんばりにも目を向けるようにする。</p> <p>*振り返りの記述を基に単元を振り返ることで、自分の成長や困りを感じることができるようになる。</p>	<p>※ワークシート</p> <p>※方法を示した掲示物</p> <p>※電卓</p> <p>関自分の歩幅の平均を進んで調べたり、長さや距離を測ろうとしたりしている。(活動の様子・ワークシートへの記述)</p> <p>→課題対応能力</p> <p>関単元を振り返り、自分の学習への気付きや困り、また、友だちのよさを見つけようとしている。(振り返りの記述)</p> <p>→キャリアプランニング能力</p>

本時の目標

○ペアで「ならず」という活動を通して、平均の意味を理解する。＜知識・理解＞ →人間関係形成・社会形成能力

○平均の意味がわかり、身の回りの平均について調べようとする。＜関心・意欲・態度＞ →課題対応能力

本時の展開

学習目標	「“ならず”という考え方や、平均の求め方を知ろう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	・「ならした大きさ（平均）」という考え方について学習するという単元目標を知る。 ・本時の「学習の目標」を知る。 ・この時間の自己目標を記入し、発表する。 “ならず”というのは、どうすることかイメージできますか。 ・自分たちの「ならした経験」を話し合う。 ・「砂場をならしている様子」、「棒を同じ長さにそろえる様子」を示した写真を見て、“ならず”というイメージをもつ。	相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。 *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 *プレゼンテーションソフトを使うことで、わかりやすく“ならず”というイメージをもつことができるようにする。	※ならず意味を説明したプレゼンテーションソフト
課題解決 (ペア)	3つの試験管に入っている液体をならしてみよう。 ・かさの違う液体が入った3つの試験管のかさをならず活動に取り組む。 ・ペアで話し合い、ならず方法を考える。 ・どのようにならしたか発表する。 ・それぞれ、110mL、100mL、150mLのかさであることを知る。 ・ならした経験を生かしながら、ならした後の一つ分のかさの求め方を考える。	○具体物を操作し、“ならず”という作業を体感する。 ○具体物をペアに準備する。 ○試験管内の液体を一つにまとめるために、500mL ビーカーを用意しておくようにする。	(ペアに一つずつ) ※500mL ビーカー ※色水の入った試験管 3本 知 ペアで「ならず」という活動を通して、平均の意味を理解している。(ノートへの記述)
課題解決 (クラス)	一つ分のかさが何 mL になったか発表しましょう。 ・全部の合計を3等分すると、一つ分の液体のかさ(平均)が求められることを発表する。 ・式の意味を言葉で説明する。 ・ならずという体験と平均を求める式とを関連付けながら考える。 今日学習をまとめましょう。 ・平均についてまとめる。 「いくつかの数量を、同じ大きさになるようにならしたものを、それらの数量の平均といいます」 ・平均の求め方を式にまとめる。 「(平均) = (合計) ÷ (こ数)」 ・指導者のならず演示を見ることで、学習したことをもう一度整理する。 ・適応題に取り組む。(ほ一26②の問題)	*ならず作業を体験することで、平均を求める計算式を考える際の手立てとなるようにする。 *プレゼンテーションソフトを使ったり、前で演示したりして、活動と計算式とを対応させて説明することで、平均の求め方を分かりやすく理解することができるようにする。 ○電卓を使ってもよいこととする。	【人間関係形成・社会形成能力】 ペアで協力することで、“ならず”という活動をスムーズに行っている。 ※電卓 ※学習をまとめるプレゼンテーションソフト 関 平均の意味がわかり、身の回りの平均について調べようとしている。(活動の様子・ノートへの記述)
振り返り	今日学習を振り返りましょう。 ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと	○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。	【課題対応能力】 “平均”が、生活のどのような場面で使われているのか進んで考えようとしている。

本時の目標

○平均を活用して課題解決する方法を、根拠を明らかにしながら考えるようにする。＜数学的な考え方＞ →課題対応能力

本時の展開

学習目標	「平均を出してから、その平均を使って問題をとこう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<p>平均を出してから、その平均を使って、計算してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の目標を知る。 この時間の自己目標を書く。 平均の求め方について振り返る。 「平均点」について考え、平均点が小数であることを知る。 <p>図書室で借りた本のさつ数の問題です。</p> <ul style="list-style-type: none"> P 1-27㉔の問題と表をノートに写す。 	<p>相指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 *身近にある「図書室」での場面を設定することで、学習課題に関心をもつことができるようにする。 <p>○掲示物等で、平均の求め方について振り返る。</p> <p>○平均の場合、小数になる場合もあることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> *プレゼンテーションソフトを使って説明することで、表の意味や題意を把握することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※平均をまとめた掲示物 ※題意をつかませるためのプレゼンテーションソフト
(個別・ペア) 課題解決	<p>1 日の平均を自分なりの考えを大切にしながら、求めましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自力解決に取り組む。 図や言葉でわかりやすく自分の考えを説明できるように、説明の仕方を考える。 <p>0 さつの日をどのように考えましたか。ペアで話し合みましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアで0 さつの日をどう扱い、どのような式を立てたか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> *プレゼンテーションソフトを使って前時の活動を想起させることで、根拠をもって自力解決に向かうことができるようにする。 <p>○「先週」というのは月～金の5日間であることを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *ペアで相談することで、自分なりの根拠をもって自力解決に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※想起をうながすプレゼンテーションソフト
課題解決 (ペア・クラス)	<p>自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 借りた冊数が0冊の日をどう扱ったのか、根拠を明確にしなが、自分の考えを発表する。 冊数であっても小数の答えでよいことを知る。 <p>求めた平均を使って、20日間では借りるさつ数が約何さつになるか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日の平均が分かれば、20日間で借りるおよその冊数がわかることを知る。 (平均) × (こ数) = (全体の数) 30日間(ひと月)に借りる冊数を求めてみる。 <p>適応題を解きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> P 1-27④の問題を解く。 答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを明らかにして、根拠を説明する。 *身近にある平均として、平均点を例に挙げたことを想起させ、平均点も小数になることがあることを取り上げることで、平均は小数になることがあるということを理解しやすくする。 <p>○ペアで話し合うようにする。</p> <p>○言葉の式を掲示する。</p> <p>○プレゼンテーションソフトを使って、学習をまとめる。</p> <p>○電卓を使ってもよいこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *20日間以外の日数でも考えることで、より平均を活用することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※電卓 ※学習をまとめるプレゼンテーションソフト ※フラッシュカード <p>④平均を活用して課題解決する方法を、根拠を明らかにしながら考えている。(ノートへの記述)</p>
振り返り	<p>平均という言葉は今までに聞いたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> “平均”という言葉聞いた経験を話し合う。 「平均気温」「平均点」「平均寿命」等 <p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> *テストの平均点を紹介することで、身近なことにも平均という考え方が生かされていることを知るようになる。 <p>○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。</p> <p>相友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。</p>	<p>【課題対応能力】</p> <p>自分なりの根拠をもって、課題解決に主体的に取り組んでいる。</p>

本時の目標

○いくつかの部分の平均を知り、それを活用して全体の平均を求めることができる。<技能>→課題対応能力

本時の展開

学習目標	「順番に気をつけて、平均を求める問題をとこう。」											
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物									
課題設定	<p>順番に気をつけて、平均を求める問題をとこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の目標を知る。 この時間の自己目標を書く。 平均から全体の数を計算する方法を想起する。 <p>問題 赤組と白組で玉入れをしました。 赤組の人数は11人で1人平均5こ入れました。 白組の人数は9人で1人平均6こ入れました。 赤組と白組のどちらが多く玉を入れましたか。</p>	<p>相 指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。 ○平均を使って、全体の数を求める方法を想起させる。 *どちらが多く玉を入れたかということに着目することで、部分の平均から、全体の数を求める必要性を感じることができるようにする。 *プレゼンテーションソフトを使って説明したり、表を提示したりすることで、題意を把握しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※前時のフラッシュカード ※問題をイメージさせるためのプレゼンテーションソフト ※表 									
課題解決 (個別)	<p>式を立てましょう。出てきた答えが何を表すのか言葉で書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> かける数とかけられる数に気をつけながら立式する。 <p>式の立て方に気をつけて問題を解きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> かける数、かけられる数に気をつけながら式と答えを考える。 自分の考えを発表する。 <p>問題 玉入れに参加した子どもたち全員では、1人平均何こになるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体の数と全体の合計を出して、平均を求めることを知る。 	<p>表</p> <table border="1" data-bbox="810 835 1190 936"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>1人平均のこ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>赤組</td> <td>11人</td> <td>5こ</td> </tr> <tr> <td>白組</td> <td>9人</td> <td>6こ</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> *接続語を意識させることで、順序立てて解決することの見通しをもつことができるようにする。 ○かけ算の式について、かけられる数とかける数に注目させる。 ○順番に気をつけて問題に取り組むようにする。 		人数	1人平均のこ数	赤組	11人	5こ	白組	9人	6こ	<ul style="list-style-type: none"> ※「まず」「次に」「だから」のフラッシュカード
	人数	1人平均のこ数										
赤組	11人	5こ										
白組	9人	6こ										
課題解決 (クラス)	<p>自分の考えを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを、根拠を明らかにしながら順序立てて説明する。 「まず」赤組、白組のそれぞれの入れた玉の数を計算する。「次に」人数の合計と、入れた玉の数の合計を出す。「だから」以下のように計算すると、全体の平均が求まる。 (全体の合計) ÷ (全体の人数) = (全体の平均) プレゼンテーションソフトを見て、この問題の解き方を確認する。 <p>適応題を解きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P ぼー28⑥ ・答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレゼンテーションソフトを使って、解き方をまとめたり、本時の学習をまとめたりする。 ○電卓を使ってもよいこととする。 ○「玉入れ」の問題の考え方を活用しながら、「幅跳び」の問題を解くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ※解き方をまとめたプレゼンテーションソフト ※電卓 <p>④いくつかの部分の平均を知り、それを活用して全体の平均を求めることができる。(ノートへの記述)</p> <p>【課題対応能力】 平均の考え方を活用して全体の平均を求めている。</p>									
振り返り	<p>今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。①がんばった・できたこと ②困り(わからなかったこと) ③友だちのすごいところ ④次の時間にがんばりたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○その時間を振り返り、自己理解を深めるようにする。 相 友だちや指導者と相談し、学習の目標やがんばり、困りを振り返ったり、次時の自己目標を考えたりする。 										

本時の目標

○自分の歩幅の平均を進んで調べたり、長さや距離を測ろうとしたりする。<関心・意欲・態度> →課題対応能力

○単元を振り返り、自分の学習への気付きや困り、また、友だちのよさを見つけようとする。<関心・意欲・態度>

→キャリアプランニング能力

本時の展開

学習目標	「自分の歩幅の平均を求めて、それを使って長さを測ろう。」		
学習展開	学習活動 (発問)	*支援 ○留意点 相相談活動	評価の視点 (評価方法) ※準備物
課題設定	<p>平均の考え方を使って、自分の歩幅を求め、いろいろな長さを測りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の目標を知る。 ・この時間の自己目標を記入する。 <p>ワークシートで調べる方法を確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5回分の記録の平均を計算することを知る。 <p>なぜ平均をはかる必要があるのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平均を求める意味について考える。 ・単位変換に気を付けて、計算する。 <p>自分の歩幅を知っていると、どのようなときに便利ですか。</p>	<p>相 指導者や友だちと相談して、本時の学習目標に向けてがんばりたいことを決定する。</p> <p>*自己目標を発表することで、目標を意識することができるようにする。</p> <p>○電卓を使ってもよいこととする。</p> <p>○単位変換の計算の仕方を提示する。</p> <p>○自分の歩幅がわかれば、メジャーがなくても、いろいろな距離を測ることができることに気付くようにする。</p>	<p>※ワークシート</p> <p>※電卓</p> <p>※歩幅の測り方を説明したプレゼンテーションソフト</p> <p>※0m0cm→00cm という単位換算の仕方を書いた掲示物。</p>
課題解決 (個別)	<p>実際に調べてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20歩歩いたときの距離を調べる。 ・ワークシートに調べたこと表にまとめる。 ・指導者や班で相談しながら、自分の平均を算出する。 ・指導者にチェックをもらう。 <p>自分の歩幅を活用して、いろいろな長さを測ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館にあるものの長さを歩幅で測り、ワークシートに記録する。 	<p>○個人で活動する。</p> <p>相 計算方法や、記録の仕方がわからない場合は、指導者が友だちに相談し、確認する。</p> <p>○算出結果をチェックし、つまずきを逃さないようにする。</p>	<p>※巻尺</p> <p>関 自分の歩幅の平均を進んで調べたり、長さや距離を測ろうとしたりしている。(活動の様子・ワークシートへの記述)</p>
課題解決 (クラス)	<p>調べてわかったことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩幅を使ってどのようなものを測ったのか発表する。 ・結果を交流して、歩幅を知ることの便利さを確認する。 ・これから、自分の歩幅を使ってどのようなものの長さを測りたいかを話し合うようにする。 	<p>*歩幅を使ってももの長さや距離を測ったことを交流することで、平均で歩幅がわかったことの利便性に気付くことができるようにする。</p>	<p>【課題対応能力】</p> <p>学習したことと身近な生活とのつながりに関心をもっている。</p>
振り返り	<p>今日の学習を振り返りましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩幅を使って距離を測った感想を交流する。 <p>単元の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような観点で振り返りを行い、ノートに記録する。単元を通して、①学習のめあてに対してどうだったか。②がんばった・できたこと ③できなかったこと・わからなかったこと ④友だちのよいところ ⑤これからの学習でがんばりたいこと ・振り返り活動に取り組んで感じたことを書く。 	<p>○単元を振り返り、自己理解を深めるようにする。</p> <p>相 友だちや指導者と相談し、単元通しての自分の成長を振り返る。</p>	<p>関 単元を振り返り、自分の学習への気付きや困り、また、友だちのよさを見つけようとしている。(振り返りの記述)</p> <p>【キャリアプランニング能力】</p> <p>単元を通しての自分のがんばりや困り、友だちのよさに気付いている。</p>

学習の目標 「“ならす”という考え方や、平均の求め方を知ろう。」

“ならす”ってどういうこと？
「砂場の砂」「ジュースを入れるとき」

ジュースをならしてみましよう。

平均
「いくつかの数量を、同じ大きさになるようにならしたもの」
 $(平均) = (合計) \div (こ数)$
一つにまとめたかさ 試験管の数

○mL
一つ○mL
= $\div 3$
こ数でわる
平均は○mL
ならしたときの一つ分のかさを平均のかさという。

<児童の考えた計算式>

学習の目標 「平均を出してから、その平均を使って問題をとこう。」

問題 先週の月曜日から金曜日までの間に、5年1組の人が、図書室から借りた本のさつ数を調べたら、次のようでした。

曜日	月	火	水	木	金
さつ数	6	7	5	0	8

ア. 先週は、1日平均何さつ借りたことになりますか。
 $(6+7+5+0+8) \div 5 = 26 \div 5 = 5.2$
答え 5.2 さつ

イ. 5年1組では、今月の20日間の貸し出し日に、約何さつの本を借りると考えられますか。
1日の平均 5.2 さつに20日かける
 $5.2 \times 20 = 104$ 答え 104 さつ

借りたさつ数が0の日は、どうしますか。 → 0の日もこ数として、数に入れる。
ジュースで考えたら、からのグラスがあっても、そのグラスにも注がなくてはいけないから。
月～金は5日間あるから。

答えが小数だけど・・・
平均は、だいたい（およそ）の数だから、答えが小数になることもある。

学習の目標 「全体の平均の求め方を考えて、順番に気をつけて問題をとこう。」

問題

赤組と白組で玉入れをしました。
赤組の人数は11人で1人平均5こ入れました。
白組の人数は9人で1人平均6こ入れました。
赤組と白組のどちらが勝ちましたか。
また、玉入れに参加した子どもたち全体では、1人平均何こ入れたことになりますか。

	人数	1人平均のこ数
赤組	11人	5こ
白組	9人	6こ

まず だから

それぞれの組の入った玉の数を求める。
 $5 \times 11 = 55$ …赤組 $109 \div 20 = 5.45$
 $6 \times 9 = 54$ …白組 赤組の勝ち 答え 5.45 こ

次に

全体の人数の合計と、全体の入った玉の数を求める。
 $11 + 9 = 20$ $55 + 54 = 109$

まず 次に だから

この接続語を使って問題をときましよう。

名前

学習の目標

「自分の歩幅の平均を求めて、それを使って長さを測ろう。」

1

自分の歩幅の測り方

- ①20 歩，歩く。
- ②歩いた長さを巻じゃくで測る。
- ③20 でわって，1 歩の歩幅を求める。
- ④ 5 回測る。
- ⑤歩幅の平均を求める。

2

(合計…歩いた長さ) ÷ (回数…歩数) = (平均…歩幅)

回数	1		2		3		4		5	
歩いた長さ	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm	m	cm
歩幅 (cm)	$\boxed{\div 20}$		$\boxed{\div 20}$		$\boxed{\div 20}$		$\boxed{\div 20}$		$\boxed{\div 20}$	

3

歩幅の平均を計算しましょう。(式)

4

自分の歩幅の平均 (cm)

先生のチェックをもらおう

5

自分の歩幅を使って，いろいろな長さを測りましょう。(平均…歩幅) × (回数…歩数) = (合計…長さ)

測ったもの	計算した長さ (式・答え)

